

# 平塚の石仏めぐり

## 29、横内編



横内中庭路傍 青面金剛庚申塔

### 横内の石仏

横内は市内の北東部に位置し、東は田村、西は大島、北に伊勢原市、南に真土が接しています。中央の東西に大山道が通り、大島との境界には波田川が流れています。

昭和 49 年 (1974) に田村から分離して大字横内となりましたが、田村の一部だった頃から西田村と通称され、一村として独自性を持っていました。

石造物は地区全体で 60 数基あり、うち 8 割は神田寺、西福寺、御霊神社の 3 ケ所に集中しています。主な石仏としては庚申塔が 3 基あります。神田寺の笠付角柱型庚申塔は山王二十一仏種子と三猿が刻まれ、寛文 5 年 (1665) 銘の古い石仏です。中庭の庚申塔である青面金剛像は庚申年の万延元年 (1680) 建立で、令和 3 年まで庚申講が行われていました。

道祖神は 8 ケ所にありほとんどが文字塔です。特徴のあるものを 3 ケ所あげると、一つ目は神田寺の東にある明治 9 年 (1876) 建立の猿田彦大神の神名をもつ道祖神です。二つ目は北庭ヨツヤ通り境界にある五輪塔で、水輪に「道祖神」の文字が刻まれています。三つ目は八的やっまとの道祖神です。明治 5 年 (1872) 建立で「道兮大神」と刻まれています。

その他の主なものとして、神田寺の文政 2 年 (1819) 建立の百番観音巡拝塔、御霊神社の石祠型と自然石の 2 基の水神です。また、下の東庭にある産神社は、小屋に納まっている石祠の屋根に「産母神」と書かれた女性の神様です。

### 石仏豆知識 23. 狛犬

神社を訪れるとその入り口に石造の狛犬を目にします。その目的は「神（聖域）を邪悪なものから守護すること」です。その起源、伝来は古く、変遷もあって現在の形になっています。諸説ありますが、現在有力視されている由来は以下の通りです。

狛犬の元はライオン（獅子）で、起源はインドの仏教寺院にその像を 2 基設置したことだといわれます。それが中国に伝わり、唐獅子となり、朝鮮半島を経由して飛鳥時代に仏教とともに日本へ伝来しました。中国では皇帝の守護獣として獅子像が定着し、それを見た遣唐使が、日本の宮中に持ち込みました。当初、日本では狛犬は宮中のもので、次に天皇家とも縁のある有力な神社へと伝わりました。その後、さらに時代を経て、一般の神社に入ってくるようになります。

中国の獅子像は一对あってもほとんどは同じ像、また多くは両方とも口を開けて並んでいます。それに対して、日本に入ってからアレンジされた「獅子」・「狛犬」は、獅子という動物と狛犬という動物（どちらも想像上の動物）、二つの異なるものが組み合わさっているという点で、中国獅子と異なります。

石造りの狛犬は、神社の参道に置かれるようになった江戸時代以降に主流になりました。参道に置くようになると、庶民が奉納するという形になります。狛犬が変化に富んだものになっていくのもこの時代からです。多くの石工たちがいろいろな狛犬を彫りましたが、古い狛犬は宮中や格式の高い神社の社殿内にあって庶民は見られず、参考にすべきものが限られていました。そのため、コピーが繰り返され、地域ごと、時代ごとに、おのずと似た形の狛犬が作られるようになります。

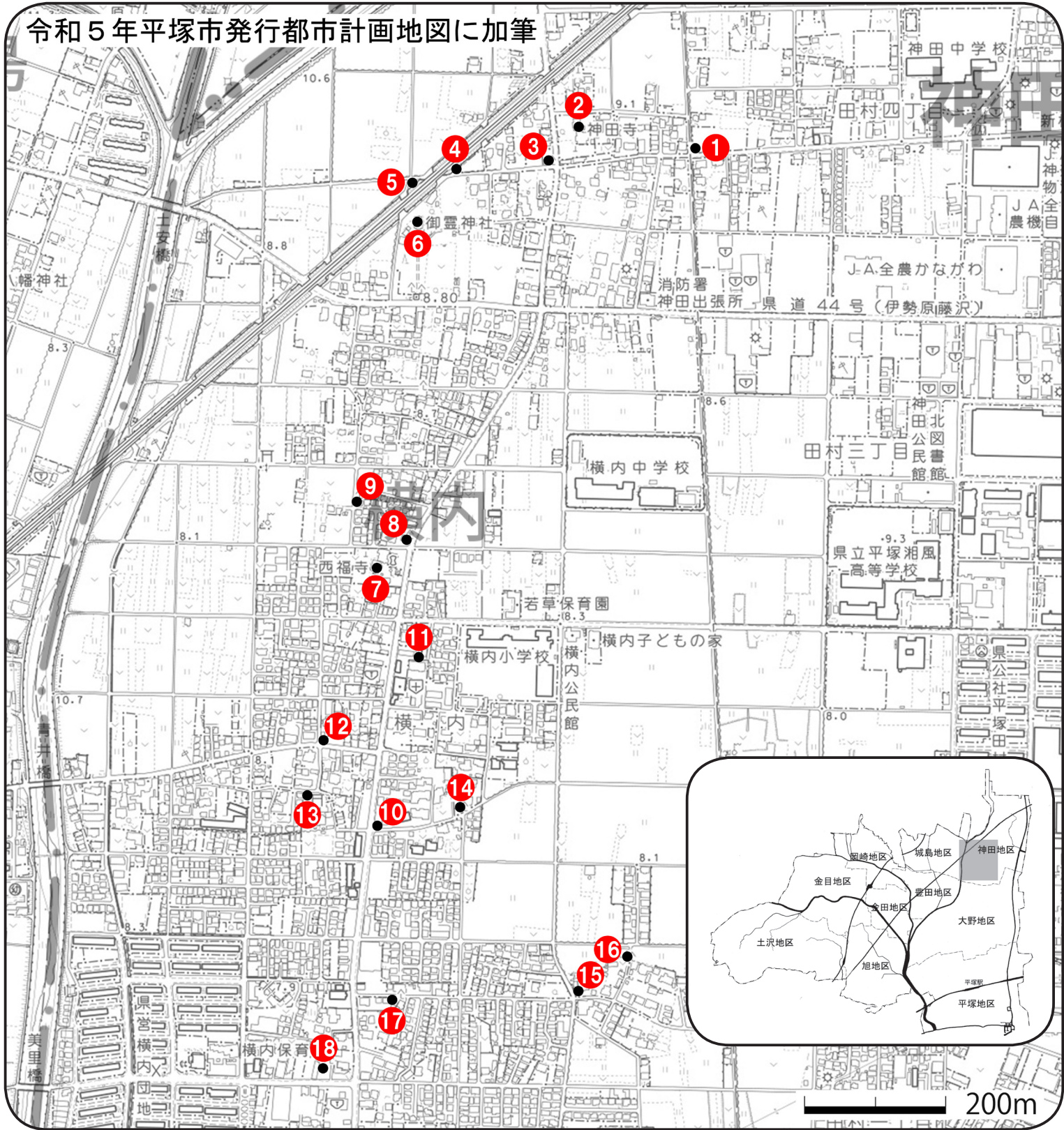
なお時代を経るに従って、獅子と狛犬の区別があいまいになっていきました。形は獅子が主になる一方で、呼び方は「狛犬」が定着しました。現代では、形は獅子が 2 基という構図の狛犬が主流です。

現在、平塚市内には 58 対の狛犬が建てられています。

### 横内の石仏所在地と主な石仏

| 番号 | 名 称    | 住 所       | 主 な 石 仏             |
|----|--------|-----------|---------------------|
| 1  | 横内カミ路傍 | 横内 440    | 道祖神                 |
| 2  | 神田寺    | 横内 455    | 庚申塔、巡拝塔・道標、宝篋印塔他    |
| 3  | 横内カミ路傍 | 横内 583 東  | 道祖神                 |
| 4  | 横内カミ路傍 | 横内 588 西  | 道祖神                 |
| 5  | 横内カミ路傍 | 横内 746 東  | 観音・巡拝塔・道標           |
| 6  | 御霊神社   | 横内 900    | 狛犬、敷石供養塔、灯籠、手水石、水神他 |
| 7  | 西福寺    | 横内 2290   | 六地藏、地藏、万霊塔          |
| 8  | 横内八的路傍 | 横内 2306-3 | 道祖神                 |
| 9  | 横内八的   | 横内 2307   | 天神                  |
| 10 | 横内東庭路傍 | 横内 3361   | 観音・巡拝塔・道標           |

### 令和 5 年平塚市発行都市計画地図に加筆



| 番号 | 名 称      | 住 所       | 主 な 石 仏 |
|----|----------|-----------|---------|
| 11 | 横内下の東庭路傍 | 横内 2731   | ウボガミ    |
| 12 | 横内中庭路傍   | 横内 2767   | 道祖神     |
| 13 | 横内中庭路傍   | 横内 3187   | 庚申塔     |
| 14 | 横内東庭路傍   | 横内 3353-4 | 道祖神     |
| 15 | 横内新田路傍   | 横内 3638   | 庚申塔・道標  |
| 16 | 横内新田路傍   | 横内 3642   | 道祖神     |
| 17 | 横内八幡塚路傍  | 横内 3760 西 | 道祖神・道標  |
| 18 | 横内八幡塚路傍  | 横内 3780   | 道祖神     |

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和 3 年集計時点のものです。

#### 石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

#### 平塚の石仏めぐり（29. 横内編）

発行日：令和 7 年 4 月

編 集：石仏を調べる会

発 行：平塚市博物館

住 所：神奈川県平塚市浅間町 12-41

電 話：0463-33-5111

## 石仏豆知識 24. 江戸時代の平塚

平塚市内で本格的に石造物が造立されるのは 1650 年代からで、とくに江戸時代中期の 18 世紀後半から後期の 19 世紀前半に数多く造立されています。石仏の造立が盛んだった時代背景を概観してみましょう。

平塚宿は西隣の大磯宿との距離が約 3km と短く、天保 14 年 (1843) には平塚宿と平塚新宿を合わせて家数 443 軒、総人数 1,214 人と神奈川県内 9 宿で 2 番目に少ない家数でした。

大磯宿が至近であるにもかかわらず平塚宿が取り立てられた理由として、後述する中原御殿への中継基地として、東海道沿いの平塚宿を必要としたため設置されたと考えられています。宝善院の庚申塔（元禄 17 年・1657）の台石には「本願主 和嶋屋 蔦屋・・・」の 8 名の屋号があり平塚宿の関係者の寄進と考えられます。

中原御殿は家康の宿所で慶長元年 (1596) の造営と考えられ、ここを拠点に鷹狩りや民情視察、大名や家臣との会見など臨時に政治を行いました。家康の没後は使用されなくなり、明暦 3 年 (1657) 解体され、元禄 10 年 (1697) 幕府所有の林野として松林が植えられ防風、防砂、水源涵養かんようの役割を果たしました。御殿の鬼門にあたる日枝神社には家康の 350 年祭に建てられた東照大権現の記念碑があります。

平塚は相模平野の中心にあり、優れた水田地帯で水田面積は県下一です。北東に相模川、北に鈴川、西部は金目川かなめと取水も潤沢です。ただ金目川は川床が高く、急流でもあり十年に一度の割合で洪水が発生。南金目の大堤の普請は家康の命で行われ「御所様堤ごしよさまづつみ」とも呼ばれていました。入野の水神橋袂の天王道路傍には、農業用水の枯渇防止と川の氾濫防止を祈願して水神が大切に祀られています。

相模川は中世末より、津久井などからの物資路として高瀬舟での舟運が発達し材木、炭、薪、年貢米などが運ばれ須賀、柳島湊は物資の結節点として繁栄しました。天保 12 年 (1841) には廻船問屋が 8 軒あり、ここで積み替え江戸に送られました。廻船に関わった人が 200 人も生活していたといわれます。また、平塚は砂浜が広く地引網に適しており、江戸時代には 21 艘の地引船が操業しており、シラス、アジ、カマス、イワシなどの魚をとっていました。カツオの一本釣りも盛んでした。須賀の三嶋神社と竜宮社には、大謀網だいぼうあみの経営者や船方が寄付した奉納碑が、お阿弥陀様には海上安全を祈願して建立された阿弥陀如来坐像があります。

平塚市域は県のほぼ中央で、陸上交通路と相模川・相模湾の水上交通路が交わる場所です。平塚宿と国内産物の積出と相模湾魚介類の水揚げで賑わう須賀があったため、江戸時代以降、平塚地域から秦野、伊勢原、厚木など内陸部へ向かう道が放射状に整えられました。宿駅としての東海道、中原で醸造された成瀬酢が運ばれる中原街道、雨乞いや農耕、漁撈に関する霊山として信仰された、大山へ向かう大山道などがあります。

### 横内カミ路傍の道祖神 (地図番号①)

神田寺から東に 100m 進んだ小さな十字路に、自然石の道祖神があります。剥離が進んで読めない字もありますが「□田彦大神」の神名です。猿田彦あまのやちまたは天孫降臨のさい、天之八衢でニニギノミコトを迎え、一行を道案内した神で、室町時代には道祖神、さえの神とされました。

市内の猿田彦銘の道祖神はこの 1 基のみです。



道祖神 (年代不詳)

### 神田寺の石仏 (地図番号②)

もとは横内山智正院と号し、明治 42 年 (1909) に他の 2 ヶ寺を合併し明治山神田寺と改称されました。宗派は東寺真言宗、本尊は青銅十一面観音です。

**庚申塔** 山門を入ってすぐ右手に寛文 5 年 (1665) 造立の古い塔があります。

塔正面、左右側面に山王二十一仏が梵字で刻まれ、塔下部三面に三猿、裏面に「奉造立庚申供養石塔爲二世〔安楽〕 干時寛文五己巳年十一月〔吉日〕 相州大住郡横内村惣氏子□」(1665) とあり、山王信仰と庚申信仰が結びついていたことがわかります。



三猿庚申塔 (寛文 5 年)

**巡拝塔 道標** 庚申塔の右奥にあり、塔正面に「西國観世音菩薩」「此方いゝ山道」、左側面に「秩父観世音菩薩」「此方ふじ沢道」、右側面に「不動明王」「此方大山道」、裏面に「坂東観世音菩薩」「此方やわた道」「文政二卯天九月日」(1819) と刻まれ百観音巡拝記念と道標を兼ねて建てられています。

地元の方によると元は浜田川にかかると安橋どあんばしの近くにあったようです。



巡拝塔 道標 (文政 2 年)

**十一面観音** 本堂に向かって左側に坐高 140cm (台座を含め約 3 m) の十一面観音像が建っています。

本尊の十一面観音が秘仏 (60 年に一度の御開帳) であるため、いつでも拝むことができるようにと「中開扉記念」(台座左面に刻字) とし、平成 8 年 (1990) に建立されました。顔も衣紋も微細に彫られています。本面と合わせ 11 面となるように頭部に容貌の異なる 10 の面が彫られています。それぞれの顔を確認してみてもいいでしょう。



十一面観音 (平成 8 年)

### 横内カミ路傍の道祖神 (地図番号③)

神田寺の西を通る道路の反対側にある道路標識の下に、高さ 67cm の五輪塔が祀られています。

造立年代は不明ですが、空風・火・水・地輪と完全な形の五輪塔です。水輪の部分には「道祖神」の文字が刻まれています。カミの北庭、ヨツヤ、通り町の境界に立つ道祖神です。このように五輪塔に「道祖神」と刻まれているものは市内で唯一であり、非常に珍しい石造物です。



道祖神 (年代不詳)

### 御霊神社の石仏 (地図番号⑥)

御霊神社は横内の鎮守社で、桓武天皇の時代 (781 ～ 806) に征夷大將軍となった坂上田村麻呂が、奥州の蝦夷征討の帰路に京都の御霊社から勧請したといわれています。

**狛犬** 鳥居の手前に高さ 231cm の狛犬一対が神社を守っています。

昭和 16 年 (1941) 造立で、左台石裏面に「当村 濱田 高次郎 横浜市中区福富町 同 儀三郎 伊勢原町 石工 北原永一」と銘があります。



狛犬 (昭和 16 年)

市内に現存する狛犬 58 対のうち、造立年不明のものを除くと、江戸期のは春日神社にある天保 14 年 (1843) 造立の一対のみで、昭和以降の造立が圧倒的に多くなっています。

**灯籠** 参道の中ほどに二対の灯籠が建っています。

後側の小さい灯籠は延宝 5 年 (1677) の造立です。向かって右側の灯籠は火袋が破損していますが、一対揃った灯籠としては市内最古です。『皇国地誌』に領主榊原氏が社地を田んぼとした罪で奉納した灯籠とあります。



灯籠 (前大正 10 年、後延宝 5 年)

また、大きい灯籠は大正 10 年 (1921) の造立です。

**水神** 社殿右裏手には「水神」があります。木造の社の内部に石祠が納められており、石祠の右面に「大正二年二月吉日」(1913)、左面に「施主 清水浪三郎 今井順」と刻まれています。また水神の社の右脇には石碑があり、正面に「水神」、裏面に「昭和六拾年参月吉日氏子中 贈八幡 (有) 佐野石材店」(1985) と刻まれています。



水神 (左大正 2 年、右昭和 60 年)

昔は神社の北側に池があり、日照りが続くと池を掘ってお神酒みきを注ぎ、大山を拜んで雨乞いをしたともいわれています。

### 横内八的路傍の道祖神

バス停横内公民館入口の路傍に建つ、八的やつまとで祀る道祖神です。正面に「道兮大神」と刻まれた神名は珍しく、市内では 1 基だけです。

神名の「兮」は特に意味がなく、調子を整える助字で、この字を「分」とみて「ミチワケノオオカミ」と読むともいいます。

平塚の道祖神碑の神名は「道祖神」が大部分で、「道禄神」、「道祖善神」、「道之神」、「猿田彦大神」などもあります。



道祖神 (年代不詳)

### 横内下の東庭の産母神 (地図番号⑪)

横内中央医院南側を東に入り、アパート北奥の立派な小屋内に、昭和 44 年 (1969) に再建された高さ 60cm の石祠が祀られています。

地元の人から「ウボガミサン」などと呼ばれています。石祠の屋根正面に「産母社」と朱書してあり、内部には「奉齋産母神御璽ほうさいぎよじ」と墨書された駒形の板が納められています。

産母神は妊娠や安産の神様です。昔はお産の無事を祈り、絵馬を納めてお詣りされていました。



産母神 (昭和 44 年)

### 横内中庭路傍の庚申塔 (地図番号⑬)

民家の塀際に板碑型の庚申塔が 1 基安置されています。剥離が進んでいますが、ショケラを持つ六臂ろっぴの青面金剛と、両手を頬に当てる顔だけの邪鬼と三猿が彫られています。

これは中庭の庚申塔で、願主の小宮金左衛門は中庭の庚申講員の先祖です。令和 3 年まで庚申講が継続され、2 ヶ月に一度、講員 7 名が掛け軸の前で線香をあげていました。庚申年の「万延元庚申八月」(1680) の造立です。



庚申塔 (万延元年)

### 横内八幡塚路傍の道祖神 道標 (地図番号⑰)

ファッションセンターしまむらの南側路傍に祠があり、その脇に小さな兜巾型の道祖神があります。摩耗が進み像容もはっきりしませんが、単体の道祖神とされています。道標を兼ねており、左面に「北あつぎ 東 江の□道」、右面に「南大いそ 西 い□□ かな□ 道 下横内講中」とあります。

市内で単体道祖神は 22 基ありますが大部分が田村と大神に集中し、横内はこの 1 基のみです。



道祖神 道標 (年代不詳)